

「国際スヌーズレン支援士(ISST)」(International Snoezelen Specialist)資格の取得について

「本資格認定制度とカリキュラムについて」(第8版)

1. 本協会の資格認定セミナーについて

「国際スヌーズレン支援士」取得のための本資格認定セミナーは、ISNAの創設者であるドイツ・フンボルト大学名誉教授、現ISNA名誉会長のクリスタ・マーテンス博士(Prof.Dr.Krista Mertens)が創った国際的に認証された資格セミナーのカリキュラムを基に、その基礎資格のカリキュラムとして、九州女子大学教授の姉崎 弘が新たに開発したものであり、現ISNA会長のRudi Gosdschan氏の承認をいただいたものです。この資格認定セミナーを受講して合格された方には、ISNA現会長のMr. Rudi GosdschanとISNA日本スヌーズレン-MSE®研究・資格認定協会理事長の姉崎 弘(Hiroshi Anezaki)のサイン入りの資格認定証明書が授与されます。

2. 受講条件

本資格認定セミナーの受講条件は、当協会(ISNA 日本スヌーズレン-MSE®研究・資格認定協会)の会員であること。年会費は4,000円です。ただし学生は2,000円。初年度(2025年度)は無料とします。

入会手続きをお願いいたします(当協会のHPの「入会」案内に、入会登録はメールに必要事項をご記入の上、ISNA日本スヌーズレン-MSE®研究・資格認定協会事務局まで下記E-mailにてお申込みください)。

Mail Address: isna.snoezelen.japan.rqa@gmail.com

【必要事項】氏名 / フリガナ / 生年月日 / 連絡先電話番号 / 住所 / 勤務先・所属名・職名 / スヌーズレンの経験年数 / 運営スタッフ希望の有無)。またスヌーズレンの実践(あるいは関与)歴または研究歴を1年以上有すること。2026年度から始めた場合は1年とみなします。

3. 会員の特典とSV(スーパーバイザー)の取得

会員になると、特典として、会員割引でスヌーズレン研修会に参加することができる。また会員特価でスヌーズレン関連書籍が購入できる。機関誌のバックナンバーの論文が閲覧・印刷できる(後ほど、ID・パスワードをお知らせします)、機関誌(査読付き)に論文等を投稿できる。当研究会の大会(年間1回、オンデマンドのオンライン研修)等で実践・研究発表(ポスター発表または口頭発表)ができる。海外のISNAのスヌーズレンの専門家の講演を聞くことができる。さらに上位の資格である「国際スヌーズレン支援士 SV(スーパーバイザー)」を取得すると、スヌーズレン研修会の講師を担当することができる等があります。この上位資格を取得するためには、「国際スヌーズレン支援士」の資格を取得後も研修会に継続して参加し、実践・研究発表を行ったり、論文を投稿したりするなどの自己研鑽に励むことが求められます。

4. 受講するための基礎資格の取得

受講の条件として、以下の基礎資格を有することまたは取得見込みであることが前提となります。学生は取得見込みで大丈夫です。基礎資格として、例えば、保育士、児童指導員、看護師、PT、OT、ST、教員免許、社会福祉士、介護福祉士、音楽療法士等の資格・免許があげられます。

5. 本資格セミナー受講のための研修受講証明書

当協会のスヌーズレン研修会を2回以上(標準6時間以上)を受講済であること、または1回3時間以上の研修会を計2回以上にわたり受講済みであること。本資格認定セミナーを受講の際に、これまでの研修受講証明書を提示していただきます。

6. 受講料

本資格認定セミナーの受講料は、一人30,000円とします(資格証代金、送料代金を含む)。受講料は、本セミナー初日に受付で支払いを済ませて下さい。

7. 努力目標

この資格の有資格者は、スヌーズレンの基本を理解しており、スヌーズレンルームやスヌーズレンに使用する部屋を用意して、対象者に、安全にスヌーズレンの実践を行うことができます。ただし、この資格はさまざまな対象者に対するスヌーズレン実践のあり方を必ずしも網羅したものではないため、受講者は本資格を取得後も、担当する個々の対象児者の障がいやニーズに応じて、あらゆる機会を利用して専門的な研修を自ら積極的に積み重ねる努力が求められます。

8. この資格は、資格取得後、最低3年間自らの専門性の維持・向上を図るため以下の研修を奨励します。これ

は強制するものではなく、各自の努力目標にあたるものです。

- a. 当協会の日本スヌーズレン-MSE®研究会(今後設立の予定)等での①スヌーズレンの実践発表または研究発表(口頭やポスター発表)、及び当協会の②機関誌「スヌーズレン教育・療育・福祉研究」誌に日頃の実践や研究論文等を投稿して下さい。令和8年度より、当協会の機関誌への論文投稿(スヌーズレンに関する論説・実践・研究)を受け付け、2026年9月11日投稿締め切り日、2027年3月に機関誌「スヌーズレン教育・療育・福祉研究」第1号を発行する予定です。査読付きの論文になります。各自の日頃の実践や研究等を見直して整理を行いまとめ直して発表する機会として活用し、自己研修に研鑽されることを期待しています。積極的に発表や投稿のエントリーをお願いします。
 - b. より上位の資格である「国際スヌーズレン支援士スーパーバイザー(SV)」の資格取得を目指す場合には、上記の a. の取組みが必要となります。
このような地道な研修の取組みを3年間以上継続し、最終的に、実践レポート(実践計画と実践後の自己評価や反省、次回に向けた修正箇所とそれに基づいた再実践の実施)や実践研究の実績等を提出してもらい、書類審査と面接の上、上位の資格である「国際スヌーズレン支援士スーパーバイザー(SV)」資格を取得することができます。この資格取得者は、スヌーズレン実践の専門家として認定され、各地域で開催される当協会主催のスヌーズレン研修会等の講師を担当することができます。
9. なお、本会を退会すると、取得した資格は失効しますのでご注意ください。
10. 2026年の、2日間の資格認定セミナーの日程とカリキュラムは、大体以下の通りです
(適宜、VTRによる学校・施設・病院等のスヌーズレン実践場面の視聴と、演習や実技指導を取り入れます)。

(1日目)2026.11.14(土)

12時から18時まで 計6時間(途中適宜休憩を含む)

(2日目)2026.11.15(日)

9時~12時、13時~18時まで 計8時間(途中休憩を含む) 2日間で計14時間。

資格認定セミナーでは、計14時間の研修を修了する必要があります。2日目の昼食は各自ご持参下さい。

(事前の研修会参加6時間以上と本資格認定セミナー参加14時間の計20時間以上の受講が必要です。)

11. 会場: 2026年度は、北九州市の九州女子大学・耕学館E108室及びE104室および仙台市の国立病院機構 仙台西多賀病院・療育訓練室、の全国2箇所の会場で実施されます。
12. 参加募集定員: 各20名程度まで。(講義と演習・実技) スクール形式 ※実技の際は、机椅子を脇にどかして実施します。
13. 最低遂行人数 受講希望者が最低3名いたら実施します。
13. 実施日:は、北九州と仙台でそれぞれ2026年6月20・21日と11月14日・15日の連続2日間になります。

「国際スヌーズレン支援士」資格取得のためのカリキュラムの概略

(1日目)

- ①スヌーズレンとMSEの起こりと歴史的経緯
- ②スヌーズレンの理念と思想
- ③海外と日本におけるスヌーズレンの発展過程と広がり
- ④スヌーズレンの環境体験と具体的な実践例の紹介
- ⑤スヌーズレン実践に必要な脳科学の基礎的理解
- ⑥夢水族園やチームラボと、スヌーズレンとの共通点と相違点
※適宜VTRと写真で実践事例の紹介と解説をしていきます。

(2日目)

- ⑦スヌーズレンルームの計画と安全対策
- ⑧スヌーズレンの代表的な器材・用具とその使用方法
- ⑨スヌーズレンの利用者と介助者または指導者との関係づくり
- ⑩スヌーズレンの実践例と実際の体験
 - a. 刺激0(ゼロ)空間の体験、刺激を1つだけ用いた空間の体験、b. バブルチューブの効果を経験する、

c. 感触を味わい触ったり触られたりする、d. 嗅ぐことと味わうこと、e. 小物を音源として使う、f. 光と音による瞑想、g. 深いリラクゼーション、h. 重度児や重症児の興味・関心を育て主体的な反応を引出す方法や関わり方。

⑪ スヌーズレン実践における記録・評価の方法

- a. 次の実践につながる生きた記録・評価を残す。記録用紙のフォーマットをあらかじめ用意し記録を蓄積し定期的に評価し見直す。
- b. チェックリストを用いた実態把握・評価、第三者にも実践を観察してもらい用紙に客観的なコメントをもらう。これは実践の貴重なフィードバック情報となり、実践の見直しに役立つ。
- c. 重症児の場合、バイタル(呼吸・心拍・血圧・体温)を用いた体調の把握や覚醒度等の評価を行い、活動内容の見直しに役立てる。
- d. 対象者本人自身による毎回の自己評価(能力的に可能な場合に限る)
- e. 観察法または記録用紙を用いた介助者による評価(対象児者の変容がわかりやすいものにする)
- f. 実践場面の VTR 録画を実施して、後で録画した画面を再生して、複数職員による総合的な評価とその後の話し合いの設定(半年に1回程度実施する)このような VTR を活用した評価はぜひとも必要です。他の学校や病院、施設等におけるすぐれたスヌーズレン実践例の VTR 紹介とその解説をします。認定試験(筆記試験になります)今回は実技試験はありません。持ち込み不可。合格基準 70 点以上。

⑫ 実技試験に代えて、実践レポートを本セミナーを受講する前に必ずメールで送付をお願いします。

2 日目に、実践レポートをパワーポイント(当日、パワーポイントを保存した USB を持参する)にまとめて参加者各自に発表してもらいます。質疑・応答。最後に姉崎が解説し講評します。一人発表 20 分程度。

⑬ 合格者には、2 日目の最後に、「国際スヌーズレン支援士(ISST)」の資格認定証明書を授与します。

上記の実践レポートは、これまでご自身が主担当となって実施したスヌーズレンセッションの中から一つ取り上げてまとめて下さい。内容としては、介助者(指導者)氏名、単元(題材)名、目標設定、所用時間、実践の期間(○年○月～○年○月まで、計 10 回実施中の第 5 回目のセッションなど)、介助者(指導者)数、対象者数、対象者の障がい名や障がいの程度、主な使用器材・用具とその設置場所(写真か略図を付けて下さい)、使用したルーム(大体の部屋の広さ・間取り、およそ 40～50 分間のセッションの展開の仕方(指導者または介助者各自のそれぞれの主な役割も記す)、留意した事項、実践の成果と評価、次回に向けた反省点や今後の課題など。この実践レポートを A4 判(40 字×40 行)2.5 頁から 3～4 頁以内にまとめて下さい(写真や図表、文献を含む)。実践の部屋・対象者、介助者、器材等の位置関係がわかるような簡単な略図、または写真(利用者の顔は特定できないように加工する)を付けて下さい。

◆ 主要な教科書として、以下の姉崎の 4 冊の著書・訳書を参考にして下さい。

1. 姉崎 弘編著『スヌーズレンの基本的な理解—マーテンス博士の講演「世界のスヌーズレン(第 2 版)」—』(学術研究出版、2025)、
2. 姉崎 弘監修『スヌーズレンの理論と実践方法—スヌーズレン実践入門—』(大学教育出版、2019)
3. ヤン・フルヘッセ&アド・フェアフル共著/姉崎 弘監訳『重度知的障がい者のこちよ時間と空間を創るスヌーズレンの世界』(福村出版、2015)、
4. クリスタ・マーテンス著/姉崎 弘監訳『スヌーズレンの基礎理論と実際—心を癒す多重感覚環境の世界—』(第 2 版復刻版)(学術研究出版、2015)。

なお、本資格の発行は、

ISNA 日本スヌーズレン-MSE®研究・資格認定協会理事長 姉崎 弘 およびその母体である ISNA の本部のある ISNA (International Snoezelen Association) Snoezelen Professional e.V. 現会長 Rudi Gosdschan であり、この両者のサインと団体のロゴマーク入りの資格認定証明書が授与されます。

2026 年 5 月 20 日

ISNA 日本スヌーズレン-MSE®研究・資格認定協会理事長 姉崎 弘